

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の方が、その人らしく暮らしていけるようなサービスを行うよう心がけている。また事業所として独自の理念を作り上げている。		地域の人々への、理念の理解を求めることへの取り組みに力を入れていきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々、理念に沿った介護ができるよう心掛けている。		いつでも理念に沿った介護ができるよう、全てのスタッフは理念を忘れないように努めている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの中で見やすい場所に理念を掲げ、周知を図っている。またホームページにも載せ、家族や地域の方に周知を図っている。		運営推進会議の中でも、理解をしてもらえるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様とスタッフが隣近所を散歩し、挨拶を交わしたり、会話をすることも。		地域の方がお菓子を持って来て下さったり、花を植えて来てくれる事もあるが、遊びに来て頂けるような良好な関係が築けるような取り組みを、行っていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事や近隣で行われている催し物などに、出来るだけ参加をするように努力している。		町内で毎年夏に行われている仮装盆踊り大会には、何ヶ月も前から仮装の準備を行い、当日は入居者様とスタッフみんなで仮装をして盆踊りに参加をしている。今後も入居者様とスタッフが、一緒に活動できるように取り組んでいきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	キャラバンメイトの研修を受け、地域に認知症の理解と知識を勉強して頂けるよう、勉強会を開く為に、計画を立ててる段階だが、まだ実行には至っていない。		認知症の勉強会を行い、地域の人々にもっと認知症を理解して頂き、開かれたホームを目指して活動を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全てのスタッフが自己評価に関わり作成を行っている。外部評価について理解をして、改善に向けて取り組んでいる。		全てのスタッフは、外部評価を理解し、開かれたホームに向けて取り組んでいきたい。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を行い、利用者へのサービス状況や取り組みなどを報告したり、話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に生かせるよう取り組んでいる。		今後も運営推進会議での意見や要望を、サービス向上に生かされるよう取り組みを行っていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者と連絡を密に取ったり、市が主催する研修会に参加して、サービスの質の向上と常に変わりがある介護保険改正にアンテナを立て、取り残されないように取り組んでいる。		今後も連携を図り、質の向上に努めていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度の理解は、研修会などに参加をして理解している。またその事をホーム内で勉強会を開くなどして、スタッフ全員に周知してもらえるように努めている。		この制度を理解し、当ホームでもニーズがあれば、いつでも相談にのれるように努めたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	スタッフは虐待防止法については周知しているが、定期的に勉強会を開き、虐待にも色々ある事を噛み砕いて説明を行い、防止に努めている。		虐待についての勉強会を開き、意識してケアが行われるよう努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様やご家族様には、契約する際、解約する際には、理解していただけるまで説明を行い、疑問や不安を取り除く努力を行い、理解して、納得して頂いてから行っている。		今後も入居者様とご家族様に疑問を持たれることなくサービスの提供に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様が意見等を表現しやすい雰囲気作りに心がけ、スタッフは日々のコミュニケーションを通し気づきができるように努めている。意見等はスタッフ間で共有し、会議等で話し合い運営に反映させている。		運営推進会議等により、外部に入居者様の意見を伝えられる機会を設け、運営に反映させていけるよう取り組んでいきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時はこちらも電話、手紙等を利用し入居者様の生活状況、新規スタッフの紹介等報告している。また今年から毎月だったホーム便りを年4回にし、より豊富な内容の新聞を発行し活動報告をしている。		今後もホーム便りを、ご家族様が見て毎日の生活がすぐご家族様に理解していただけるような便りを発行できるように努めていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不定期ではあるが家族会を実施し要望を聞く機会を設け、また面会時にスタッフが意見等を聞きだすよう心がけ対応している。外部としては入り口正面に苦情相談窓口の案を掲示している。意見等はスタッフ間で共有し、会議等で話し合い運営に反映させている。		今後、家族会の定期開催の回数が増えるよう努力し実現していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は、日々スタッフの意見や提案を聞くようにし、その意見を日常業務に生かしている。		今まで以上に個別に話しを聞く機会を多く持つようにし、意見を聞いていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフ同士で話し合い、入居者様の状況や変化の時などシフトの変更を柔軟に行えるように努めているし、行事の際必要なスタッフを確保できるよう調整に努めている。		急な病院受診などそのときそのときに対応できるように勤務の調整を図ったり、少しずつ増えてきている催し物や行事に対応すべきスタッフの確保に今後も取り組んでいき、入居者様と共に過ごす時間を提供していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新規スタッフについてはなじみの関係が築けるまでの十分な時間を確保してから、通常シフトに入らせていただいている。またOJTにて日々教育を行い、利用者にとってのケアが提供出来るよう努めている。		スタッフの移動等はやむを得ない場合以外は行わず、離職等の希望があった場合には全スタッフが入居者様・ご家族に対するケアを意識し行うように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>講習会や研修会に参加できる機会を多く持てるように取り組んでいる。定期的スタッフ会議にて研修内容の報告や自主的な勉強会も行いケアの向上に努めている。</p> <p>スタッフにスキルアップのため今後も積極的に研修会等の参加に努めたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>各種研修への参加や運営推進会議での同業者の参加等で交流は増えてきている。その中でお互いの今取り組んでいる活動や共通した問題等を話す機会を持ち解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>同業者と情報交換を密にし、サービスの向上とスタッフが悩んでいる問題の解決に向けて今後も取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>スタッフのストレスを軽減させる為に、ベンソン法を取り入れて実践させている。また、日常的な聞き取りをしている。</p> <p>1対1で行われる個人スーパービジョン、集団で行うグループスーパービジョン、仲間同士で行うピアスーパービジョンを用いてスタッフの悩み・ストレスを少しでも軽減・解消に向けて取り組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>運営者はスタッフ個人個人の努力・功績・勤務状況等を把握し個人個人が向上心を持って働けるように配慮し、働き続けるための取り組みに努力している。</p> <p>上記にも述べたようにスーパービジョンを用いて、スタッフの声を聞くようにし、向上心を持って働けるような現場作りに努力したい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居に至るまでや、入居初期には本人と接する時間を増やして、御本人が思っている事や不安に思っている事をよく傾聴し、信頼関係を築けるように努めている。</p> <p>今後も信頼関係が構築できるよう努力し、継続していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>御家族とはいつでも話す機会を持ち、今後の事を相談し、求めている事をよく聞き、より良いケアが提供出来るように努力している。</p> <p>今後今以上に、ご家族との話す機会を増やしていけるように努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様に合わせたケアプランの他に、入居者様が望む事がある時は、その都度スタッフ同士で話し合い、ご家族と相談しながら支援を行うようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	御本人が昔から行っている事や、昔の話を混ぜ、スタッフや他の入居者様との接する時間を少しずつ増やし、馴染めるように努めている。		今後も認知症だということを理解しながら、馴染みながらのサービス提供に努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様と共に理解を行い、親しみのあるおかずの味付け等を入居者様から学んだりしている。		今後も入居者様と色々とコミュニケーションを図りながら、一緒に寄り添うケア・支えあうケアを行っていけるよう努力していきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様が行っている事や思っている事をご家族が来られた際に話をし、ご家族が知らない事がないように入居者様の情報を共有し、関係を築いている。		今後もご家族様から信頼されるよう努めていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御家族が来られた際に、スタッフが御本人と御家族の間に入ったたりし、最近の近況報告等をし、御家族との会話を広げる様に支援をしている。		今後も御本人と御家族の架け橋となり、より良い関係を築けるよう努めていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人関係はとても大事な事また大切な事なので訪問して頂いたり、連絡をとりあったりしている。		行事など、友人や家族と一緒に参加できるような環境作りに取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々、入居者様同士昔の懐かしい話で盛り上がる事が多いので、スタッフは話のきっかけを提供したり、話を広げ、どの入居者様も関わられるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホーム以外でも御家族様と会った時は、御本人の近況を聞くなどして、大切なお付き合いをさせて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人や御家族の希望、意向を出来るだけ尊重している。		今後も毎月のカンファレンス又は必要時に入居者様に変化が見られたときなど、スタッフ全員で御本人にとって良いケアの方法を検討し、サービスの提供に努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れ、今までの生活環境に近づけられるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様が過ごしやすい環境に近づけるように努め、入居者様の体調などを考慮するように心掛けている。		センター方式の活用の徹底化を図り、今まで以上に暮らしやすい環境を提供していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成に当たって、本人の必要としている事等を家族に話し、その上で家族の意向や意見・アイデアを基に介護計画を作成している。		常に入居者様本意を考慮し、生活の質の向上に向けて、介護計画を作成できるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その都度関係者と話し合いを持ちながら、スタッフや御家族、必要な関係者との情報交換を十分に行い、現状に即した介護計画を作成している。		介護計画は期間に応じてや変化が生じた場合は評価し、見直しを行っている。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別の介護記録に記入し、入居者の健康状態や精神状態や入居者の言葉など、詳しく記入し情報をスタッフ同士で共有し介護計画に生かしている。ホームとしては御本人の意向を取り入れ外泊も十分考慮しているのだが、実践には至っていない。		個別の記録用紙は、入居者に合った用紙を何度も作り変え、入居者の一日の行動を把握でき、分りやすい内容の記録用紙を提供し、御家族の意向、御本人様の意向を取り入れ外泊を実践できるように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としては、グループホームのみの運営の為、多機能性を活かした支援は行っていないが、ホームとしては、御本人様や御家族の状況、その時々要望にはいつでも支援ができるように対応している。		今後、老人クラブ・家族会・地域包括支援センター・ボランティアなど情報を取り入れ、サービスの提供に努めていく努力をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアに来ていただき、文化にふれる機会を設け、地域資源と協力して頂き、また市の主催するイベント等に努めて出かけるようにしている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の地域のケアマネやサービス事業者との話し合いの場は設けているが、他のサービス活用には至っていない現状である。		今のところは行っていないが、入居者のニーズにあった支援を行っていく上で必要性が高くなると思われる。今後取組んでいきたいと思っている。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働している。運営推進会議に参加して頂いている。		今後も必要に応じて、長期的に活用していく予定である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者様全員の係りつけ医師の確保は整っている。訪問看護ステーションと契約をし看護士との連携も図れている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい専門医を受診し、治療、相談など受けられる体制は整っている。すぐ対応できるよう支援している。		今後もっと連携が図れるよう取り組みたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	地域の訪問看護ステーションと契約をし、週に1度ホームを訪問して定期の健康管理を行っている。何か特変があった場合も電話で相談し適切なアドバイスを受けている。		今後もっと連携が図れるよう協力をを行い、緊急時ホームで対応できるように努めていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者様が疾病等で入院した場合、管理者・スタッフが伺い、病院関係者と情報交換を行い退院に向けた備えを整えている。		今後この状態の維持を図れるよう努めていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方について御本人様や御家族様、掛かりつけ医等と話し合いを行い、繰り返し話し合いを持ちスタッフ全員で方針を共有している。		今後は具体的な話し合いを、御家族との間で行っていききたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者様やその御家族が希望された方針を医師・訪問看護師などと連携し、協力してもらいながらスタッフ一同、終末期に向けた支援を行っていききたい。		在宅ターミナル支援についての研修会に参加し、今後に備えて準備を行えるよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時は、関係者の間で十分に話し合い、ダメージを防ぐ努力を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様一人ひとりに理解できるような話し方や言葉遣いを行い、記録している。個人情報は、守秘義務を守り厳重に保管・管理している。		個人情報を使用する際は、家族に了解を得てから行っている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者様が何を訴えているのかを傾聴し、一人ひとりに合わせた説明を行い、その都度納得されるよう支援している。		今後も、一人ひとりのニーズに合わせてサービスの提供に努めていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様によっては、早朝から「外出したい」と希望するなど時間帯によっては、個人の希望に沿えない事もあるが、一人ひとり楽しく過ごして頂けるよう心がけ支援している。		今後も、一人ひとりのニーズに合わせてサービスの提供に努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容室の方に連絡をしホームに来ていただいている。また入居者様の希望で、当ホームのスタッフが電気バリカンを用いてカットしている。		スタッフが行う時には、御本人や御家族に了解を得てから行っている。また御本人と一緒に店に出かけ洋服などを購入する事も行っている。
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	個人の好みに合わせ、入居者様の意見を取り入れた献立を考えたり、入居者様とスタッフが一緒に準備や後片付けを行っている。		好みにより、他の入居者様とは違う物を提供するなど、個人のニーズに合わせてサービスを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	入居者の好みや状態に合わせて、楽しめるよう支援している。		入居者によっては、おやつなど制限があり、状態に合わせた対応を行なっている。
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄は出来るだけ失敗の無いよう時間的に誘導するように支援している。オムツはなるべく使用しないように試みている。		入居者の行動・しぐさなどからサインを読み取るようにし、排泄を促す支援を行っている。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	入居者のタイミングに合わせ、入浴支援を行っている。状態によっては、スタッフの都合で入浴していただいている時もあるが、そのような時は話をして納得して頂いてから入浴の提供を行っている。		今後は出来るだけ、入居者に合わせた入浴支援をしていきたい。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	入居者によっては、身体の痛みがあり安眠できない方もいらっしゃるが、その他の入居者は安眠できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	入居者の身体の状態に合わせ、役割がある。ゲームや散歩など少しの時間でも楽しい時間を過ごせるよう支援している。		利用者によっては楽しみごとがない入居者様もいるので、喜びのある日々を過ごせるよう考え、支援していきたい。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	金銭管理をしていない入居者様も、スタッフが一緒に買い物に行けるよう支援している。		お金を所持している入居者様との買い物は、スムーズに買い物する事ができるような支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	催し物などの参加、季節感に応じたドライブ、買い物、散歩など外出の機会を作っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言っていたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者様の希望に応じ、外出の時間を作って対応している。		1年間の行事を作っており、外出の回数も多くなっている。スタッフも時間を作り、普段見に行くことが出来ない動物園や足湯などを企画し、支援を行っている。今後、家族との交流を図る行事も考えて取り組んでいきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙の代筆、電話など御家族とのコミュニケーションを図れるよう支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室でゆったりと会話ができるよう、椅子やお茶の提供を行っている。		入居者様と御家族が、一緒に焼肉とか花見などで楽しめるよう取り組んでいきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員の勉強会を定期的に行っており、正しく理解し、実践している。		今後も多くの研修会に参加し、新しい考え方の身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	同上		徘徊される入居者様には常にスタッフが見守り、声かけを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者様の所在を確認し、目配りしながら状況観察を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて、スタッフが見守りで行ってもらっている。針やハサミ・刃物などはスタッフで管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者様の状態や状況を観察し、事故が起こらない様に見守りを行っている。事故が起きた場合には、スタッフで事故防止のための話し合いを行っている。火災については、1階と同様な取り組みを行っている。		事故発生時のマニュアルを作成し、同じ事が再び起こらない様、徹底した対応を行っている。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ間での急変・事故のマニュアルを共有し、どんな状態でも迅速に同じ行動が取れるよう努めている。また年1度、消防署や応急手当の研修に参加し、各自訓練を受けている。		研修だけの対応ではなく、緊急時の対応の仕方・事故発生時の対応の仕方をすぐ行動に移せるような状態を作れるよう、ホーム内の勉強会の強化に努めている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2度、関係者立会いの下、火災訓練を行っている。その際、避難経路を確認し各自シミュレーションをしながら訓練を行っている。		水害・地震についての対応はしておらず、今後マニュアルを作りホーム内での勉強会にて各自シミュレーションを行い、いつでも対応できるよう取り組んでいきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者様の体調や心の変化があれば、スタッフが御家族との話し合いで、これから起こりえるリスクの回避をスタッフ一同で話し合っている。		常に入居者様の変化があり、これから起こりえるリスクを御家族とスタッフ一同で考え取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常にスタッフは入居者様の体調の様子を把握できている。状態により、訪問看護師や医療機関に相談し対応している。		常にスタッフ一人ひとりが入居者様の異変に気づき、記録やスタッフ間との情報の共有の下で、早期発見に繋がるようなケアを行っている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示の下、内服するよう支援している。変更がある場合などは、スタッフ間で周知するようにしている。		入居者様の内服している薬は、スタッフが理解し支援が出来るよう取り組んでいる。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事や水分チェックを行い、入居者様一人ひとりの身体状況に対応している。		食事は、食物繊維の多い食材の使用に心がけている。水分は、多く摂取して頂けるよう声かけを行い飲んで頂いている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事後、口腔ケアを施行し、口腔内の清潔に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様個々の摂取量を把握し、チェックを行い支援している。		脱水に気をつけ、水分量を多く摂取して頂けるよう対応している。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフの体調の管理、外出先から戻った際の対処、感染症の予防のための毎日の掃除の際の除菌、タオルなど共有する物の消毒、感染症が発生した時の対処法など、常に研修会に参加し勉強を行いそれをホームに帰ってきてからホーム内勉強会を開きスタッフの対応の周知徹底を図っている。		高齢になると免疫力も低下し、様々な感染症を引き起こすリスクが高まる。感染症に感染することにより命を落とす危険性があり、外部やスタッフからの感染またはホーム内での感染症の蔓延を予防しなければならない。そのためには日頃からスタッフの感染症の認識と徹底した消毒・除菌、発生した場合などの感染の広がり、スタッフが媒介者となりうる事も含め今後もこのことを周知徹底して継続して行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は新鮮なうちに使い切るように努めている。調理用具は、毎日漂白除菌を行い、衛生には気をつけている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>当ホームは2ユニットある為、玄関がユニットごとに分かれている。二つの玄関を分りやすく、なおかつ自由に出入りができるようにしている。</p>		<p>家庭的で親しみやすい空間作りや、入居者様や御家族様が談笑できる空間作りに今後も努めていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共同の場所は、入居者様やスタッフでの手作りの作品や飾りを、季節ごとに飾りつけするように工夫している。</p>		<p>季節感をもっと感じてもらえるようにしていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共同で使用する場所は、自由にくつろげるようソファを置き、入居者様が気のあった者同士で談笑できる等、好きな場所で過ごせるように工夫している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>御本人の愛用の物を使用してもらうようにして頂き、居心地良く過ごせる環境を作っている。必要になった物などは御家族や御本人様と相談して購入させて頂いている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居室に空気清浄機を設置しており、夏場は窓を開け自然風を居室に取り込むようにし、冬場は暖房の調整をこまめに行っている。また居室が乾燥気味だったら、洗濯物を干したりと空気の乾燥には気をつけて対応している。</p>		<p>排泄の処理後などは、消臭スプレーを使用することもある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>室内には、観葉植物があり緑を楽しむ事はできるが、花はない為花も楽しめるようにしていきたい。</p>

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの実績に関する項目		取り組みの成果
項目		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
・入居者様が、居心地の良い場所で自分らしく生活できる環境作りにスタッフ一同取り組んでいる。